

経験を学びにかえる

学生・若手職員に求められる能力を考える



2017年8月25日

塩崎 俊彦

高知大学 大学教育創造センター

1

本日の到達目標



1. 経験学習モデルについて説明できる。
2. 「プロセスの振り返り＝メタ認知」について、自分の経験をもとに説明できる。
3. 「意味づけられた経験」がなぜ有用であるかを説明できる。

本日のスケジュール



- 10:00 自己紹介
- 10:05 オリエンテーション
- 10:30 ワーク:学生・若手職員に求められる能力
- 11:00 ギャラリー・ウォーク
- 11:10 ミニ講義
- 11:30 ワークの振り返り
- 11:50 クロージング

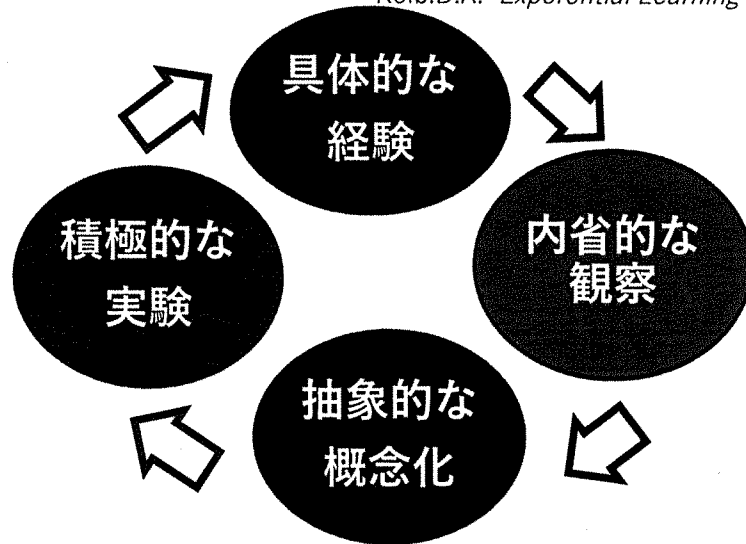
SPODフォーラム2017のテーマ

Feeling と Thinking を Learning につなげる

知 情 意



Kolb, D.A. *Experiential Learning* 1985



5



32枚のカードには、学生や若手職員に求められる能力の一例が書かれています。グループで話し合っ、是非とも身につけてほしいと思う3つを選び、理由とともに模造紙に書き出して下さい。

グループは、職種や職務年数などが異なるメンバーで構成されていますが、尻込みせず、ほんの少しの勇気を出して、自分の意見を述べる快感を味わってみてください。

6



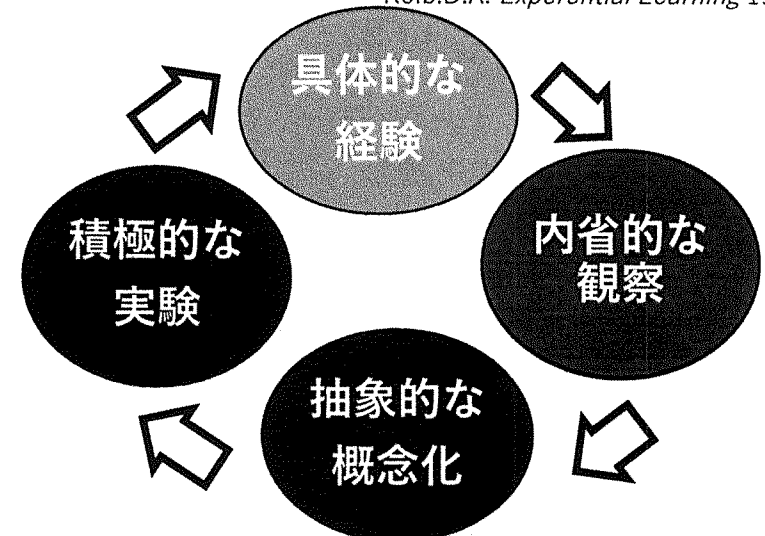
ポストイット4枚と筆記用具を持って、他のグループの結果を見て回しましょう。

共感したこと、思ってもみなかったこと、質問したいことなど、なんでもいいので、ポストイットに書いて模造紙に貼り付け、あなたの足跡にしてください。

7



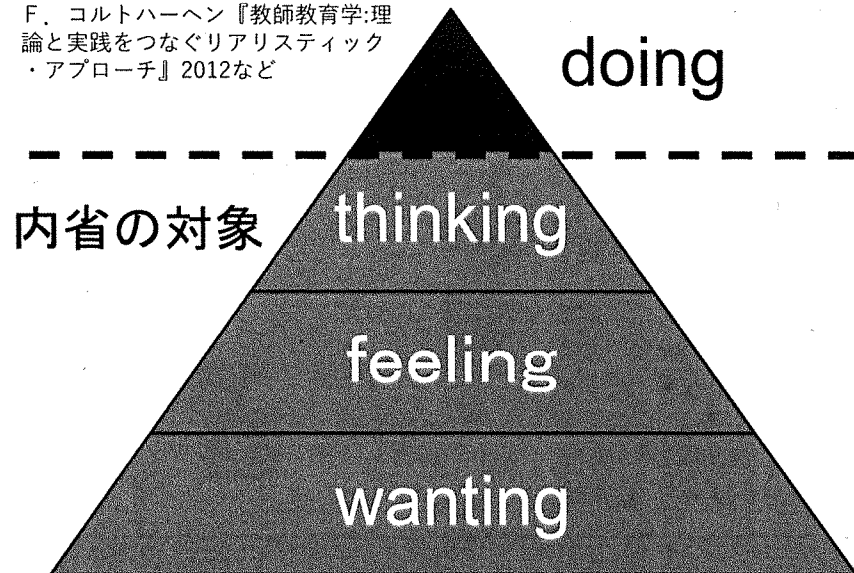
Kolb, D.A. *Experiential Learning* 1985



8

コルトハーヘンの冰山モデル

F. コルトハーヘン『教師教育学:理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ』2012など



Collaborative Community Studies Unit, Kochi Univ.

自分と相手のズレ



Collaborative Community Studies Unit, Kochi Univ.

10

「どう感じたか？」の背景にあるもの

どうしたかったか？

欲求
信念
価値観
常識
思い込み
etc.

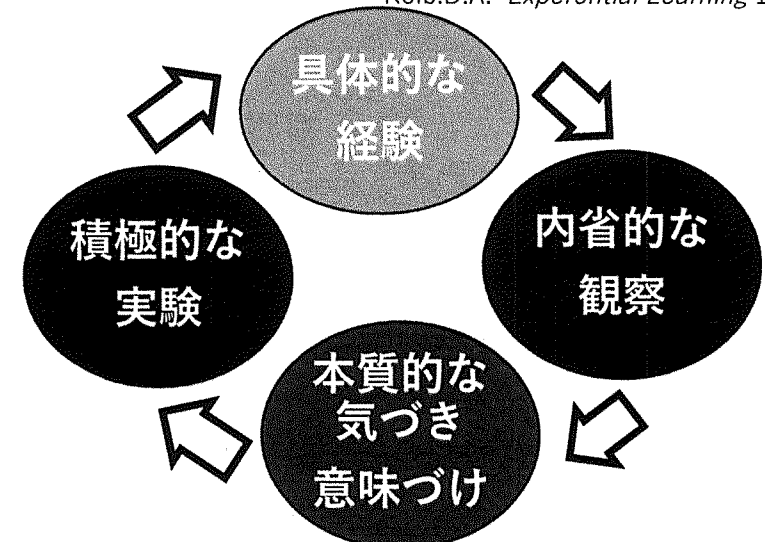
どう感じたか？
快・不快
etc.

11

Collaborative Community Studies Unit, Kochi Univ.

コルブの経験学習モデル

Kolb, D.A. *Experiential Learning* 1985



12

Collaborative Community Studies Unit, Kochi Univ.

本質的な気づき・意味づけ



具体的な体験

何を、どのように感じたか？

なぜ、そう感じたのか？

相手＝他者とのズレは？

欲求・信念・価値観・思い込みetc.

次にどうするか？

プロセスを
振り返る

メタ認知



経験を意味
づけする

13

本日のふりかえり



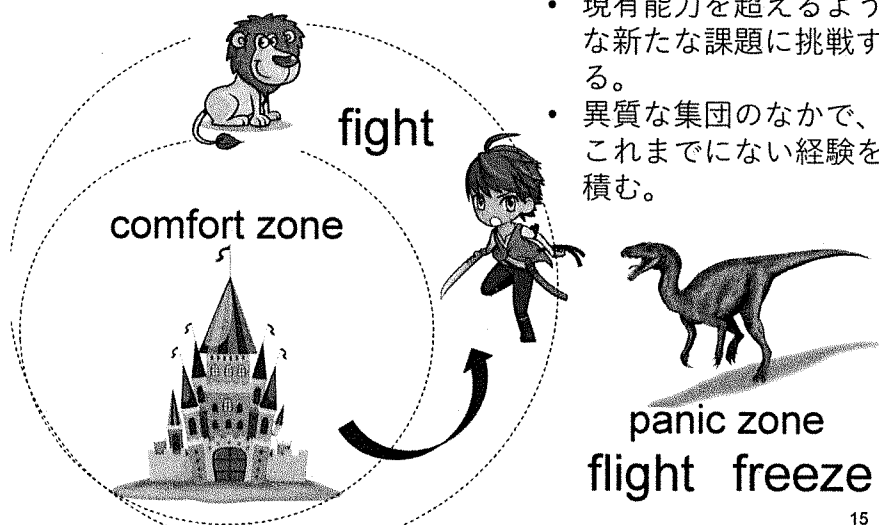
シートを使って振り返りをしてみましょう。

このシートは回収しませんので、できるだけ今のありのままを書いてみましょう。

のちほど、グループ内で共有してもらいますが、その際には、話せる範囲のことを話していただいたので結構です。

14

戦う / 逃げる / すくむ



- ・ 現有能力を超えるような新たな課題に挑戦する。
- ・ 異質な集団のなかで、これまでにない経験を積む。

15

まとめ



- ・ 「feelingに着目する」ことは、「感情を制御するべきだ」という結論をめざしてはいません。
- ・ あなたが感じたことの背景にあるものに着目し、そのプロセスを意識すること＝メタ認知を通じて、「あなたの経験を意味づけする」ことが重要です。
- ・ メタ認知によって意味づけされた経験は、あなた自身の気づきによって「腑に落ちた」もので、次のステップに向かうためのBreakthroughとなるでしょう。
- ・ 今回は触れていませんが、相手の言動についての背景を知るためには、そのための関係性を作っていくことが重要となります。

16